第３回　校内授業研究会

～指導主事計画訪問（教科等）～

平成２２年７月６日（火）			
指導者	秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所　指導主事　木村百合子先生 同　田口　雅人先生 大仙市教育委員会　主幹兼指導主事　佐藤　信夫先生 同　高橋　規子先生		
授業者	３松	学級活動（２）のエ：清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解 題材「ぴかぴかの学校にしよう」	伊藤 昭光
	５竹	学級活動（１）のウ：学校における多様な集団の生活の向上 議題「『ほろわんＢＯＸ』をとどけよう」	木元 光子

学級活動（１）

特に強く意識した取り組みと成果	○『よりよい人間関係』を目指した議題開発 ○子どもたちの必要感を高めるための事前の手立て ○意見の根拠（→めあて、提案理由、学級目標） ○話合いの核になる子どもの育成
課題として次に生かしたいこと	○色短冊の生かし方 ○子どもたちのイメージの共有化 ○話合いの行き着く先の明確化。 ○相手意識の明確化と共有化

学級活動（２）

特に強く意識した取り組みと成果	○技能面だけでなく“心の弱さ”に焦点を当てた構成 ○道徳の技法を取り入れた心の表現（心情図） ○問題点が浮き彫りになるアンケート結果の提示 ○子どもの心に強く訴えかけるための複数資料の準備 ○学級目標の具現化 ○計画委員の人選、活用 ○１時間をしめくくる教師の話
課題として次に生かしたいこと	○実践を継続させていくための手立て

研究会で学んだこと

○集団討議して決める集団目標をはっきりと‼
○当番活動は実感すること。根本は心情面。だから道徳とつながる。
　Ｈｏｗ　ｔｏ～ではない。
○“そうじをするよさ”を窓口に“働くことのよさ”へ（心の耕し）。
○学活（２）は「よりよい自分づくり（Ｙｅｓ．Ｉ　ｃａｎ）」
　　→ 自己指導能力の育成 ← 課題の自分化、みんな化
○流れが分かり、自己決定に生かせる板書。
○自己決定は心情面も入れて（ｅｘ．みんなの役に立つように無言そうじ）
○「みんなも取り組むから自分もやってみよう」＝ 個でありながら集団
○具体的な物理条件をはっきりさせる → 子どもたちに必要感